

第6回勝山市総合行政審議会（第16期）議事録

日時：令和4年1月14日（金）15：30～

場所：勝山市役所3階第1会議室

【第6回審議会】

1 開会

2 議事

《第6次勝山市総合計画（案）について》

第1編第1章について事務局より資料説明

小泉綾委員

これまでの第5次総合計画ではエコミュージアムを核に市政運営をしてきたとのことだが、今回の第6次総合計画では何を核とするのか。

例えば「恐竜のまち勝山」というものを中心に据えましようとなれば、観光でも産業でも教育でも、市民の方は動きやすくなると思う。皆が同じ方向に向かって進んでいけると思う。

○未来創造課 辻

ご指摘のあった核になる部分をという点については、各方面から分かりにくいというようなご提案等をいただいているため、何かしらの表現ができるように検討させていただきたい。

大石橋委員

2ページ目3ページ目を見比べた時に、3ページ目では注目してほしい文言には色を付けている。

2ページ目もここは見てほしいという重要なワードは色分けなどすると資料として見やすいのではと思う。

○未来創造課 辻

ご指摘の点を踏まえて、デザイン面も含めて見やすい工夫をしていきたい。

富田委員

この計画は実際に策定された後、全市民に配布されるのか。それともネット

で公開されるのか。要は誰にこの計画を知っててもらいたいのか。

この計画にはたくさんの方が書かれていて、読み切れないと思う。絵や図柄をたくさん入れて、若年層も読みやすいようなものにしていただきたい。市民の方が読んで、これから楽しみに思えるようなものにしてほしい。

○未来創造課 谷内

ご指摘の点については、今後審議を重ねていく中で、より良いものにしていきたい。

情報公開という面でいえば、4月の広報かつやまでダイジェスト版のようなものの掲載を予定している。

また、もう少し内容を噛み砕いたものとして、子供版総合計画のようなものの発行も予定しており、こちらに関しては出版業者に委託を予定している。

第1編第2章について事務局より資料説明

小泉綾委員

勝山市が目指す10年後のまちの姿は「わいわいわくわく安全安心のまち勝山」ということで、安全安心のまちを目指そうというのは素晴らしいと思う。

ただ、そこを目指すため、向かっていくために、どのようにしていくのかというところに「勝山らしさ、他にはない何か」を入れた方が、特徴的な計画になって良いと思う。

そうでないと、どこのまちでも同じものになってしまう。せっかく今後10年の長期の計画を作るのであれば、これが勝山だよと我々市民も思えるような何かを入れていただきたいと思う。

○未来創造課 辻

ご指摘のとおり、安全安心というものはどこの市町でも考えなければならないことであり、勝山らしさとはどういったものかということ、皆様と議論していく中で、表現できるように努めていきたいと思う。

小泉綾委員

会社で計画を作る時には、会社の利益をあげるだとか、社員のご家族の安全を守るだとか、そういったものは大前提の話で、どこの会社でも一緒だと思う。

では例えば、私の会社だったら何をするのかと考えた時に、強みは何だろうとか、一番アピールできるものは何なのかということを考えて、入れ込んでいけないといけない。

そういうふうに、勝山市としての一番のアピールポイントは何なのか、全国や世界にアピールできる勝山というのは必ずあると思うので、そこをもう少し議論して、みんながこれだよなと思える何かをだせるといいんじゃないかなと思う。

○未来創造課 辻

勝山市においても、勝山らしさや強みといったアピールポイントをしっかりと見出して、表現していきたい。

立平委員

アフターコロナを考えるのであれば、リモートワークやワーケーションについても検討しなければならないと思う。

○未来創造課 辻

リモートワークやワーケーションといった、コロナウイルスが広がる前にはあまり考えられなかったことが、現実的に出来るようになってきた。

こういったことも勿論考えていかなければならない。次回以降、具体的に政策を考えていく際に再度議論させていただきたい。

塚本会長

総合計画に基づいて総合戦略を策定して、各検証をしていくという流れかと思うが、そのあたりが文章では分かりにくい。総合戦略と総合計画の関連性を分かりやすくお示しいただきたい。

○未来創造課 辻

分かりやすく追記・修正を行う。

大石橋委員

5ページのイラストなど、今後より詳細に（分かりやすく）記載する予定などはあるか。

○未来創造課 辻

6、7ページの構成図等も含めて、わかりにくい部分については、差し替えを検討している。

第1編第3章について、事務局より資料説明

富田委員

勝山市の総合計画とSDGsの関係性について、いきなり記載ができたという印象を受けるが、このふたつを重ね合わせることが適切なものなのかどうか。これを計画の体系に記載した意図は何か。

○未来創造課 谷内

色々な施策を進めていくうえで、SDGsに貢献することが行政としての責務であるという考えもあるが、そもそもこれまでの取り組みの中にも、実はSDGsに資することというのはたくさんある。

それをきちんと市民の方にも見える化をして、行政・企業・市民が一体となって総合計画を進めることで、SDGsにも貢献しているんだよということを、理解してほしいという狙いがある。

織田委員

先日勝山市でもゼロカーボンシティの宣言をされたと思うが、そちらに関する記載がない。これでは脈絡が見えてこない。2050年に向けてゼロカーボンを目指すのであれば、今回の総合計画に記載しないと間に合わないと思う。

第6次総合計画と、今回のゼロカーボンシティが別だと言うのであれば、この総合計画でSDGsは謳えないと思う。

○未来創造課 辻

ゼロカーボンシティに関しては、市だけではなく企業の方、そして日本だけではなく世界的に見て、今後の社会経済の最も重要と言われるような部分の一つになると感じている。

織田委員のご指摘のとおり、そういった視点の記載が不足しているかと思われるので、構成を見直したいと思う。

また、政策としては60ページに記載させていただいているため、詳細についてはそちらで議論させていただければと思う。

織田委員

記載できるならしっかりと上のほうに記載したほうが良い。皆さんとても注目されている。

○未来創造課 谷内

検討する。

大石橋委員

SDGsについて、7ページの構成図に紐付けるように記載してはどうか。

○未来創造課 辻

各政策目標のページには記載しているが、一覧のほうにも記載する。

小泉綾委員

ゼロカーボンシティを目指すなら、基本的な考え方にも入ってこないといけないと思う。全ての政策を進めるうえで、ゼロカーボンということを踏まえないといけない。

またさきほどから申し上げているように、勝山の売りをどう活かしていくかというような記載も必要。

○未来創造課 谷内

総合計画の中で見える化するのか、総合戦略の中で色を出していくのか、やり方は色々あると思うが、また協議させていただきたい。

第2編第1章について事務局より資料説明

山内委員

「10年後のまちの姿」はこのままで、キャッチフレーズは別に作るという認識でよいか。

○未来創造課 谷内

「わいわいわくわく安全安心のまち勝山」という文言に関しては、市が目指す10年後にこうあってほしいというまちの姿をあらわしたもの。

勝山市を象徴するようなキャッチフレーズというものは別途考えて表現していきたい。

織田委員

10年後のまちの姿は今回で決定ということか。

○未来創造課 谷内

今回で決定ではない。今後の審議会も通して十分協議していきたい。

織田委員

非常に重要なものだと思うので、時間をかけて協議していきたい。

○未来創造課 谷内

キャッチフレーズについては、前回審議会終了後にも話に挙がったが、他県に行った時に「勝山ってこんなまちだよ」といえるようなものを考えていきたい。

中村委員

(岩手県紫波町の公民連携の事例を紹介いただく)紫波町はみんなから無理だと言われていた事業を成功させて、これこそが紫波町だというものを築き上げた。

極端に言えば、タイトルを変えれば他所の市町でも通用するような内容ではなく、これこそが勝山市だというものが必要だと思う。

○未来創造課 谷内

ご指摘のとおり総合計画には総花的な側面もあると思う。その分中身をしっかりとやっていきたい。

目指す部分、課題は何か、なぜそうなるのかといった点を見極めて、中村委員にご紹介いただいた事例のように、機を逃さず、取り組むべきことに取り組んでいきたい。

そのためには、やはりマンパワー、地域の力といったものが必要不可欠で、これらの力を持続・発展させていく、そういった土台が大切かと思う。

そういった観点から「2つの創る」について、パッと見は地味かもしれないが、こういったところをしっかりとやっていきたい。

中村委員

先ほど紹介した事業に携わっていた一人が言っていたことだが「誰もが反対し、失敗すると警告を発するような事業ほど、経済的に自立でき、結果として地域の経済を改善させています。この10年間、公民連携事業を行ってきて、多くの人にバカにされ、反対された事業は、私の想像を絶するくらい順調に需要が推移しています。ですが、多くの人に大丈夫だと言われた無難な事業については、なかなか苦戦しています」と。

つまり、目新しさがないので、結果的に規模の大きな所に人が集まるということ。交通機関がこれほどまでに発達してしまっている現在では、右に習えて同じことをやっても、人は大きなところに流れていくということだと思う。

まわりがやっているからうちもやろうということでは、なんの勝山の特徴にもならない。

小泉綾委員

中村委員のご指摘のとおりだと思う。勝山市は今後、どんどん小さくなる一方。それなら打ってでたほうが面白い。同じことをやっても大きなところに数やお金の力で負ける。だったら、勝山市どうしちゃったのというくらい、インパクトがあるものをやったほうがいい。

私も織田委員と商工会議所で何か面白いことができないかやっている。そういったときに勝山市が先導してくれるような形があるといい。

世の中、楽しいことを求めている人はたくさんいる。とがったもの輝くものを。行政として難しいこともあるとおもいますが、強く願う。

○未来創造課 谷内

先ほどから申し上げているとおり「勝山らしさ、勝山の強み」という部分をしっかりと表現していきたい。そして、表現するだけではなくしっかりと実践していきたい。

ただし、総合計画の中であまり具体的にこれと記載しすぎると「こうじゃなくて、あれがやりたい、これがやりたい」という時に浮かんでくることができない。「勝山って恐竜しかダメなんだ」とはならず、色々な選択肢を考えていける余裕も残しつつ、この総合計画というものを考えて表現していかないといけないと思う。

みんながやりたいことに挑戦できるということも大切だと思うし、もちろん総合計画における方向性といったものを、もう少し面白くという考えも大切だと思っている。

織田委員

総合計画のため総花的になってしまうということは勿論理解しているが、我々はどうしても具体性を求めてしまう。なんでもいいよなにしてもいいよというスタートだと、難しいと思う。

色々なまちが色々なまちづくりをしている中で、他市町が公民連携などを掲げて様々な事業に取り組んでいる現状を鑑みれば、我々も、もう少しそのあたりを練ってもいいのかなと思う。今後の審議会等で協議していきたい。

○未来創造課 谷内

第5次総合計画と違い、第6次総合計画では「基本構想」の部分のみをお示

している。

第5次総合計画における「基本計画」の部分というのは、今回の総合計画には記載がなく、第6次総合計画においては総合戦略が基本計画の部分にあたる。

そのため、具体的な事業等については総合戦略に記載することとなるので、この総合計画だけを見ると、ご指摘のとおり、具体性に欠けていたり、表現的に物足りない面もあると思う。

いただいたご意見は総合計画にだけ反映するのではなく、総合戦略にも反映していきたいと思っている。具体的な総合戦略の中身については、次回以降お示ししていきたいと思っている。

そういった事情があるため、総合計画についてはそういうものだというご理解をいただきたい。

切り替えが難しいかもしれないが、総合計画 具体的な総合戦略 そして実際に実施していく予算、この3本立てで市は考えているということをご理解いただきたい。

中村委員

先ほどから申し上げていることは、何かというと、勝山市でないといけないものはなにかということ。

委員方はこの勝山市が、10年後に本当に自慢できるような、まさにわくわくできるようなまちにしたいと思っているから、こうして集まってきている。

そういう意味では、私は前回も申し上げたが、インバウンドには大きな勝算があると思う。

勝山大野を見ても誰も地元の魅力に気づいていない。インバウンドと言っても、誰がそんなことできるんだと思っている。

しかし先ほど申し上げた紫波町では、そういったところから事業を起こして成功している。私は勝山市にもそういう挑戦をしてほしいと思っている。

小泉綾委員

県外の人と話をすると、どこに行っても恐竜の話がよく挙がる。これだけの資源をアピール、活用できなかつたら問題だと思う。きちんと戦略として打ち出さないといけない。

それに対して、具体的にどう打って出ていくかというのは、戦術の話になると思うので、下位の計画でやれば良いと思う。

しかし戦略として、勝山市としては恐竜を出していきます、平泉寺の文化遺産を出していきますということは、はっきりとさせないと、上の計画がぼやけすぎていると、動きにくいと思う。

そして外から見た時に「勝山には恐竜があるのに、恐竜のまちとして打ち出していかないのはなんで」と思われる。

なので、もう表にしっかりと書いてしまったほうがいいんじゃないかなと思う。

○未来創造課 谷内

地域資源として、恐竜などの記載はしっかりとしていきたい。そしてただ単に恐竜という言葉に散りばめるのではなくて、各政策としっかりリンクさせていきたい。

小泉綾委員

言葉があると、イメージもしやすいと思う。バラバラにやるのが一番お金の使い方としても力の使い方としても勿体無い。まちとしてきちんとまとめられるように、核になる言葉を入れてほしい。

塚本会長

総合計画の総花的な性質も理解できるが、その中で勝山市の性質や特色をだしていけると良い。例えば10年後のまちの物語などは、もう少し風呂敷を広げるような書き方をしてもよいと思う。

立平委員

オガールプロジェクトは処々等の条件が整っていたからであり、簡単に真似できるとは思えないし、立地を考えても別の方法を考えなければならないと思う。参考にすることは良いと思う。

また、総合計画は抽象的でも問題はないと思う。企業においても大計画、中計画、章計画を作成して実効性につなげているはず。分厚すぎる総合計画を市民は読んでくれるだろうか。

塚本会長

総合計画なので、漏れなくあらゆることが網羅されているということが必要で、ある意味抽象的にならざるを得ないという側面もある。

その中でも勝山市の特色を出していただければと思う。

富田委員

少子高齢化の背景記載について、女性の社会進出や若者の就職難がそのまま少子化に結び付けられているように読めて、差別的な表現に感じられると思う。

○未来創造課 辻
適当な表現に修正する。

大石橋委員

基本的な考え方の記載について、現在は現状・課題・方針の3段構成となっているが、方針に関しては到達目標と切り分けて記載したほうが「こういう目標のために、こういうことをするんだ」ということが明確に分かって良いのではないか。

○未来創造課 辻
目指すべきところというものが、分かりやすくなるように表現を変えたい。

塚本会長

「10年後の人口構成を踏まえた対応」だが、自然減、自然増の話が中心になっている。

IターンUターンで社会減をどうやって食い止めるかという話や、子育て教育はもちろん、その進学先・就職先の受け皿の問題など、社会減に関する要素に関する記載もしたほうが良いと思う。

○未来創造課 谷内
適当な表現に修正する。

立平委員

PPPやPFIに関する注釈が必要なのではないかとよく言われることだが、なるべく横文字は使わないほうが良い。

○未来創造課 谷内
注釈については、最終的に入れる予定をしている。

織田委員

先ほどの話で例えると、総合計画は企業でいうところの、大計画ということで審議をしていると思うが、計画を立てるにあたってはその根拠となる小さいところまでを、ある程度見据えたうえで策定すると思うので、我々としてはそこをしっかりと認識しながら、リアルな部分を想像しながら検討していきたいと思う。

そのため、色々質問等させていただくと思うが、ご了承いただきたい。